

## 医療現場にセラピスト導入～愛ある手当てプロジェクト～

私は、現在総合病院で現役看護師として働いています。看護師歴は、18年目になります。その18年かけて思うのは、医療は「愛ある手当て」だと言うことです。今まで、多くの患者様との出会いがありました。そして、その経験を通し気づいたことは、薬だけが治療ではないということです。患者様が、ユーモアや喜びを感じて笑顔になることも治療だと思っています。

人は人が優しく手を当てるだけでも安心します。それが、「手当て」です。医療には、「手当て」「手厚い看護」「手をつくす」というように、人の手にまつわる言葉が少なくありません。これは、医療サービスの本質を示す言葉です。つまり、「人の手と心の温もりに溢れる人間的なケア」が医療の原点であると思っています。

私が、この「手当て」を大事にしたいと思い始めたのは、ある映画がきっかけでした。「パッチアダムス」これは、実在する精神科医ハンターアダムスの半生を描いた映画です。このパッチ、愛と笑いが人を癒すことに目覚め、自らクラウン（道化師）となって、患者さんに接することを始めました。彼は言います。「温かい笑顔は伝染する。そして、笑いは最高の薬なのだ」と。

私は、この映画をきっかけとして難病の子どもたちの夢を叶えるお手伝いをしたり、パネルシアターという移動型の紙人形劇を小児科病棟や児童養護施設、障がい者施設に行って公演活動をしてきました。

入院中の子どもたちは、ストレスがいっぱい。痛い注射に苦い薬、怖い検査のうえに家族とも離れ離れ。もう入院は、嫌なことばかり。だからこそ、私は「笑い」をお届けしたいと思いました。

待っててくれるんですよ、子どもたち。どんなにきつくても、抗がん剤の点滴をしながら、お母さんの膝枕で横になりながら。だから、私は届けたかった。だって、笑顔はどんな薬にも勝るからです。

その後、がん患者支援のチャリティーイベントの実行委員となり、色々と経験する中で、医療の中にもっと癒しとなる手当てを取り入れたいと思い、アロマセラピーを学び始めました。

アロマは、香りだけでなくマッサージによるケアで患者さんに触れて関わることが出来ます。鎮痛薬による緩和方法に加えて、アロマセラピーを取り入れることで、患者さんの苦しみを和らげる選択肢が増えると考えたからです。

けれど、日々の業務に追われ、なかなか自分のしたいことが出来ずにいました。そんな中、東日本大震災が起こりました。

もういてもたってもいられない心境になっている時に、東京在中の先輩看護師は、すぐさまアロマ隊を立ち上げ、被災者の方々にアロママッサージを施したり、ただ、肩をさすっては話を傾聴したりという活動を始めました。

それは、補完代替医療と言いますが、私は、医療の中で最も大切な「手当て」を行っていると思いました。

手当てに心を込めること。手の温もりと誰かを大切に思う気持ちを伝えるため、私もようやく立ち上がる事が出来ました。

それが、現代の医療だけでは補いきれない心のケアを目的とした「ハートケア活動」です。

癒しの技術を持ったセラピストが、病院や福祉施設における患者さまやそのご家族、医療従事者に対し、メイク・ネイル・アロママッサージ・ヘアカットなどの美容を提供し、また、アート療法であるパステルアート講習も開催しています。

医療現場では、医療者が「触れ合う」「寄り添う」その大切さを理解していても十分な時間をかけて向き合うことは、必ずしも容易なことではありません。そこに、セラピストが加わり、手当てをすることで、患者さんを少しでも癒すことが出来たら、喜んでいただけたなら、そこに、笑顔の輪ができるのです。

その患者さんの嬉しそうな顔を見たご家族が笑顔になり、その光景をみた看護師が笑顔になり、また全体を見た、セラピストが笑顔になります。

活動をしていると「笑顔は伝染する」というのを感じます。

実際、患者さんの反応ですが、皆さん言われるのが、

「痛みや不安で夜が眠れないんだけど、今夜はぐっすり眠れそう。」という言葉です。

また、メイクをした方は言います。「病気になってからは、自分を飾ろうだなんて気持ちに全然なれなくて。久しぶりにメイクしました。やっぱり、女は綺麗になると嬉しくなるものよね〜」。と、笑顔でおっしゃいます。

そこで感じるのは、セラピストが側で関わることの意義とその大切さ。

セラピストが病院に入ること、患者さんの痛みや苦しみを少しでも和らげることができたら、西洋医学における補完的なケアとしてより効果的な診療が可能になってくると思います。

将来、セラピストが医療現場でも必要とされ、医療者とセラピストが一緒となって働ける日がきっと来ると思います。

その実現を夢見て、歩み続けます。

## 〈メイクセラピー〉

メイクは人を元気にする力があります。見た目をつくることがどんなに中身に左右するか。見た目の刺激が脳に送られると行動が変わります。特に女性は幾つになっても、病気であっても、綺麗でありたいと願うもの。女性にとっての外観は、自分を奮い立たせるものなのです。つまり「外観から入って内面を元気にする」というコンセプトが根底にあります。



## 〈アロママッサージ〉

人は人が優しく手を当てるだけで安心します。それが「手当て」です。肌に触れるという感情的な効果とその価値は計り知れません。手を撫でてほぐすことは、脳を撫でて心をほぐすことだと言われています。アロママッサージでは、ラベンダーの香りやタッチングによる効果で自律神経のバランスを整え、心身のリラックスをダイレクトに感じます。手を通して愛情を伝えることが大切です。

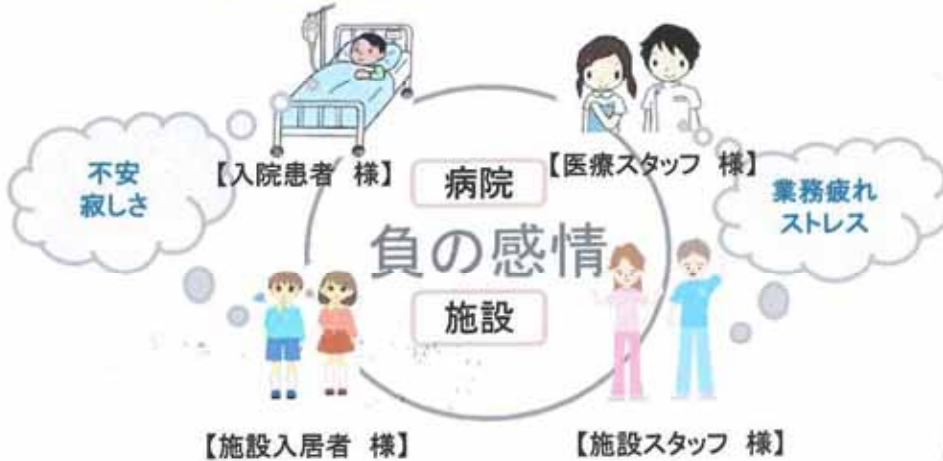


## < ハステルアート >

パステルアートは、誰でも手軽に楽しめて絵が苦手な人でも作品が簡単にできる優しいアートです。色を選び、輪郭をなぞり、手指を動かして描いていく行為そのものが、右脳と左脳の活性化を促します。また、創作を通して会話が生まれるきっかけとなり、コミュニケーションが図れるようになります。パステルアートをして心の元気をサポートします。

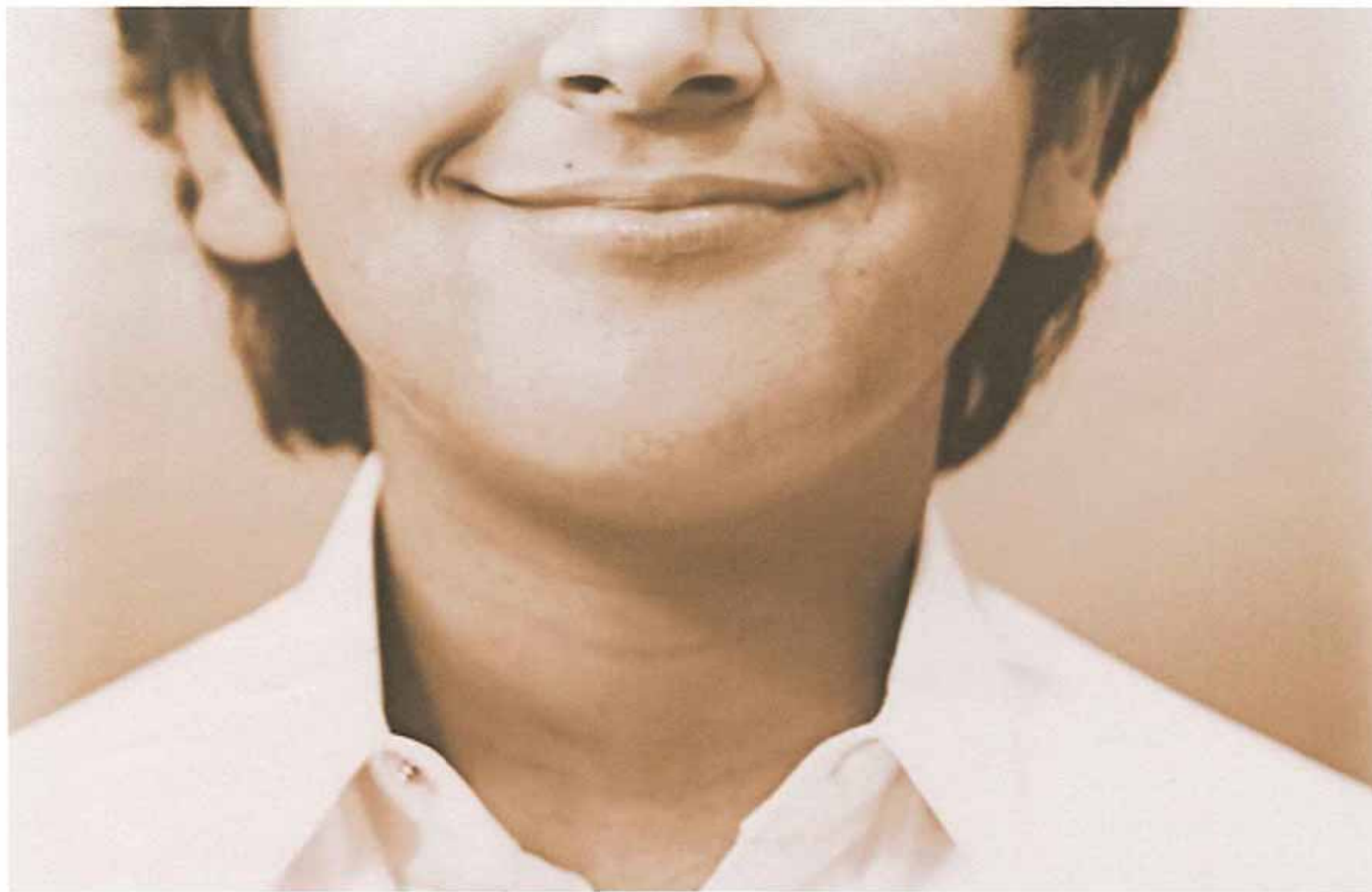


## ハートケア活動



現在日本では、厳しい景況感を伝えるニュースが度々報道され、先行き不透明な雰囲気、世の中を覆い尽くしています...





このような時代だからこそ『人との繋がり』や『心のリラクゼーション』  
の大切さに皆が気づき始めています。



特に、医療福祉の現場で、この二つは重要なものになります。

更に『癒しを必要とする人』『癒しを提供する人』

どちらも非常に需要が増えています。





**しかし現在、互いがうまく繋がることができていません。**

# 私達のビジョン

- ・ 医療福祉の現場で、疾患や症状を持ったクライアントがQOL（生活の質）を保ち、安心して過ごせるように家族・病院・施設・地域と連携をとり、より良い生活を送るためにサポートする。
- ・ セラピスト（療法士）が本来の目的である“癒し”を提供するため、自己の職業を生かし、社会貢献出来る活躍の場を作り、サポートする。
- ・ セラピストの社会的地位の向上、プロフェッショナルのとしての意識改革行い、業界全体のサービスの質の向上に寄与する。

**ようするに...**



『癒しを必要とする人』と



『癒しを提供する人』を...



『繋ぎ合わせる』取り組みです。

『癒しを必要とする人』

私達のミッション

『癒しを提供する』



残念な事に今の日本の現状は、医療福祉機関や、行政の理解が乏しい部分もあり、欧米などと比べ、セラピスト（療法士）の普及に遅れをとっています。



アメリカでは1990年を境にガンの発生率も死亡率も下降線をたどっている。

「アメリカのガン治療は、西洋医学だけではダメだと気付いて  
政府で代替医療部を作り、国レベルでの研究を進めている。

医師たちの3分の2は代替療法に興味を持っているといわれます。  
日本はその点、残念ながら10年から15年は遅れていると思います。

(真柄 俊一/素問八王子クリニック院長)

ここでいう、代替療法とはセラピスト（療法士）の技術であり  
『癒しを提供する人』の事を指します。

**セラピストとしての技術や知識を活かしたい。**

**同じ志を持つセラピストの仲間が欲しい。**

**セラピストとしての可能性を広げたい。**

セラピストとして  
何よりも笑顔で喜んで  
頂くことに生き甲斐を感じる

『すべては癒しを必要とする  
クライアントのために...』